

●「つみたてNISA」の画期的な点

家計における安定的な資産形成に向けた制度として導入され、少額からの長期・積立・分散投資ができる「つみたてNISA」が、来年1月から利用できるようになります。

積立が前提の制度なのに、なぜ12ヵ月で割り切れない年間上限40万円という設定にしたのかと投資家から不満の声が上がっていますが、期間は20年で累計800万円が非課税枠となり、一般NISA(600万円)よりも大きくなりました。

非課税枠を大きくしただけでなく、資産形成層の投資家向けにいろいろ配慮されてもいます。「つみたてNISA」が画期的なのは、これまでなかなか家計で投資が根付かなかった要因を分析し、「その課題をどう解決すればよいか」を考え抜いていることです。

まず、「安く買って高く売る投資なんて多くの投資家にはできない」を前提に、タイミングを考えないで済む積立投資に特化しました。

次に、「多くの投資家は選択肢が多いと何をせばよいかに迷う」を前提に、長期投資に向けた金融商品の基準を金融庁が明確に設定し、金融商品の数を絞り込みました。

そして最後に、「多くの投資家は仕組みが複雑になると理解できない」を前提に、毎月分配型やレバレッジをかけたものを対象から外しました。

こうして絞り込まれた「つみたてNISA」の対象商品で20年にわたる長期積立投資を継続できたなら、リターンの大きさは選択した金融商品によりバラツキは出ますが、値上がり益を期待できると言えるでしょう、家計の資産形成の役に立つだろうと私は思います。

その金融商品ラインナップに金融庁が自信を持っていることは、同庁自身が発行している「つみたてNISA早わかりガイドブック」でわかります。これには「積立・分散投資の効果」として、1995年から2015年までの実績で、定期預金が累積で1.32%(年平均0.1%)、国内の株・債券に半分ずつ投資したものが38.0%(年平均1.9%)、国内・先進国・新興国の株・債券に6分の1ずつ投資したものが79.9%(年平均4.0%)増えたと紹介してあります。

過去の実績であり今後を保証するものではないとの断りはもちろんありますが、「20年間継続して積立投資をしたなら将来の家計にゆとりがでそう」といった夢を描けるのが、「つ

みたてNISA」の最大の魅力なのだと思います。

●元本の1.5倍以上を追求する

そこで、私なら「つみたてNISA」をどう活用するかを考えてみました。「つみたてNISA」の魅力は、やはり非課税枠です。そして積立投資のメリットは、大きく値下がりする投資環境でもコツコツと安値を拾い、将来、妥当価格から割高に向かう過程で、その安値で買い付けたものが花開くことです。

図表は10年間、毎月1万円ずつ、AファンドとBファンドに積立投資した場合の評価損益の推移です。ご覧の通り、価額が緩やかな右肩上がりのAファンドよりも、価額が大きく変動しながらも同じく右肩上がりのBファンドのパフォーマンスのほうがよいことがわかります。

年間40万円、毎月3万円程度の積立額で「どんな組み合わせが適当なのか」とポートフォリオの組み合わせに頭を悩ませるよりも、まず、積立投資は絶対やめないと覚悟を決めることです。そして、将来大きな値上がり益が期待できそうなものをピックアップして投資を始め、大きく値下がりする場面はむしろチャンスと捉えて、基本、20年間放っておくぐらいの取り組みでよいと考えています。

ポートフォリオの見直し(リバランス)がいらないバランス型投資信託を選ぶのであれば、値ぶれが小さな安定型よりも、株式やリートなど大きな値動きが期待できる対象の割合が高いものを、私なら選びます。

私が「つみたてNISA」に期待するのは確実な資産作りではありません。20年間、積立投資を継続した結果、元本800万円で投資した資金が1200万円とか倍の1600万円になるなど、大きなリターンを期待しています。

